

—光を求める人々と、それを支える医療スタッフを描く—

ミュージカル

脚本：嶽本あゆ美 演出：青砥 洋

パパからももらった宝もの

8月27日(水) ● 18時30分開演
8月28日(木) ● 14時00分 ● 18時30分開演
新宿文化センター・大ホール



原作：坪田一男
出演：劇団BDP
児童劇団「大きな夢」

主催：移植・再生医療を支える会
企画・制作：児童劇団大きな夢、メディアプロデュース

●チケット 4月下旬発売予定

一般 6,000円

学生 3,000円 (中学生以下) ※3歳までのお子様は入場できません

チケット予約／お問い合わせ：キャピタルビレッジ

03-3478-9999 (10:00~19:00)

●公演に関するお問い合わせ
児童劇団「大きな夢」 03-5304-8146
移植・再生医療を支える会 03-5775-2075

知っていますか？アイバンクのこと。

年間2万眼の角膜が必要と予測される日本で、実際の移植件数は年間1500眼程度。
多くの患者さんが移植できる日を待っています。

■ 知っていますか? アイバンクのこと

現在、角膜移植により視力を取り戻せる患者数は日本国内で2万人と推定されています。しかし、1年間に行われている角膜移植の件数は少なく1500件(国内ドナーによる)程度です。日本における臓器提供は個人の自由意思なのですが、臓器提供の意思を持っていても、その意思が生かされていないケースが多くあります。一般的に「ドナー登録」することが考えられますが、登録や書面による意思表示がなくても、ご家族の方が担当医や看護師に申し出ることによって実現します。また、角膜の提供は心停止後、ご遺族への負担も少なく行えます。

■ ミュージカル「パパからもらった宝もの」が生まれるまで

原作は、坪田一男(慶應義塾大学医学部眼科)による「ベストじゃなければ意味がない!」(旧題「アイバンクの挑戦」)。

アメリカでは年間4万件行われている角膜移植が、なぜ日本では1500件なのか。日本で角膜を待っている患者様のために、アイバンク活動をもっとさかんにしたい、日本にも活発なアイバンクを作りたいと思いつき、会う人ごとにその熱意を伝えること10年間。角膜センターアイバンクが完成するまでのストーリーである原作にヒントを得たミュージカルです。アイバンク・コーディネーターがドナーのため、角膜移植を待つ患者様のために奔走する姿を描きます。

この作品では、実際の医療従事者を映像で描く医療面のドキュメンタリー・パートとミュージカルの融合をはかり、光をつないでいく家族、そして仲間を暖かく描いていきます。

Q&A 角膜移植についてよくあるご質問

Q 両親も私も角膜提供したいと思っていますが、具体的にはどのようにしたらよいのでしょうか?

A ドナー登録をしていただくのも一つのステップです。しかし、登録は必ずしも必要なものではありません。登録していなくても、ご本人やご家族が担当医師や看護師にその意志を伝えていただくことで、提供することが可能となります。

Q 近視や乱視でも提供できますか?

A できます。

Q 角膜はできますか? 白内障手術を受けていますが可能でしょうか?

A 角膜の寿命は200歳といわれています。ですから、100歳の方でも大丈夫です。ただし、3歳以下のお子様の場合は、一般的に角膜の発育がまだ未完成のため移植に適応となりません。白内障手術は大丈夫です。

Q がんなどの病気で死亡した場合も提供できますか?

A 角膜に病気がなければがんなどの病気で亡くなられた方も提供できます。一部の感染症などは提供できない場合がありますので採血させていただきます。また、ご提供いただいた角膜はその後詳しい検査をしてから移植に用いられます。

Q 眼球を摘出した後はどうなりますか?

A 義眼をお入れいたしますので、お顔が変わることはありません。摘出したことは外見からはわかりません。

Q 移植後に拒絶反応はないのでしょうか?

A 移植後は拒絶反応を抑える免疫抑制の点眼をします。角膜には血管がないため、他の臓器より拒絶反応が少なく、安全性の高い、移植治療です。

この作品をご覧になって、ご家族やお友達、大切な人と
角膜移植について一緒にお考えください。
どこかで光を待っている誰かのために。